早春に産卵するカエルたち

富山で最も早く卵を産むカエルは、ひとまとめにしてアカガエルとよばれるヤマアカガエルとニホンアカガエルです（図 1）。どちらも丘陵から山地にすみます。射水丘陵では、いつもの年だと２月中旬から３月初旬が産卵期です。

この時期には谷の湿地や水田に雪解け水がたまり（写真 1）、ヤマアカガエルやニホンアカガエルのオスと卵でお腹がふくれたメスがやって来て産卵します（写真 2）。水たまりには雪が残っていることもあり、夜になると 5℃以下になることもあります。産卵は夜に行われることが多く、日中はやわらかい泥や草の中、ワラの下にかくれていてみつけることはなかなかできません。

夜になると、オスがメスをひきつけるため、「キャラララ･･･」（ヤマアカガエル）、「キョキョキョ・・・」（ニホンアカガエル）とどちらもかんだかい声で鳴きます。まるで、人がわらったような鳴き声で、夜に聞くとカエルだと知らない人には気味が悪い鳴き声にきこえることでしょう。

卵はどちらも透明な寒天質につつまれ、１個１個がたくさんくっつき、産んですぐには丸い形になっていますが、水をすって大きく広がります。何匹分もの卵がくっつき大きなかたまりになっていることがよくあります（写真 3）。今年は、雪がたくさんつもっているので、産卵が遅れるかもしれません。

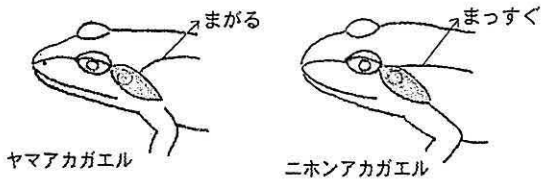


図１アカガエルの見分け方

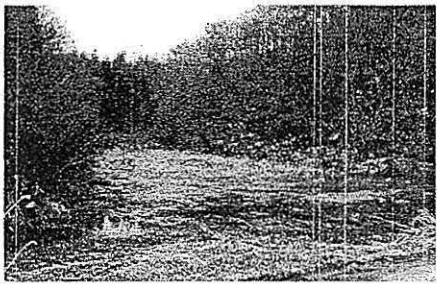


写真１　アカガエルが産卵する谷



写真２　産卵中のニホンアカガエル（上オス、下メス）

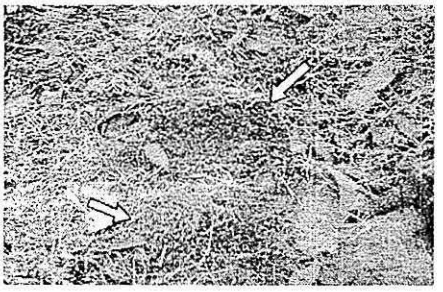


写真３アカガエルの卵のかたまり（矢印）

（南部久男）